

市立高等学校改革の方向性 (素案)

はじめに

千葉市学校教育審議会（以下、審議会という。）は、平成30年5月に千葉市教育委員会教育長から、「市立高等学校改革の方向性について」諮問が行われたことを受け、市立千葉高等学校及び市立稲毛高等学校・附属中学校における今後の在り方について、教育課程や教育活動等を検討する案を整理するため、審議会委員から2名及び外部から学識者2名の4名で組織する「市立高等学校の教育課程等に係る部会（以下、部会という。）」を設置した。

部会での検討内容は、市立千葉高等学校の先進的な理数教育の拡充について及び市立稲毛高等学校・附属中学校の中等教育学校への移行について議論を行った。そこでの議論は、両校にとって、今後、さらに魅力ある学校へと大きな変革をするための具体的な示唆を十分含んでいるものであった。

これをもとに、第2回及び第3回審議会において、部会での市立高等学校改革の方向性について審議を重ね、より市民ニーズに応えることのできる市立高等学校の姿を描くことを目指した。

本答申は、今後、両校がそれぞれの特色に磨きをかけ、魅力あふれる学校となり、千葉市に軸足を置きグローバルに活躍できる人材を数多に輩出する学校となることを期待するものである。

目次

はじめに

1	これまでの市立高等学校改革の取組み・・・・・・・・・・	1
2	市立高等学校改革の成果と課題 （さらなる改革の必要性）・・・・・・・・・・	3
3	市立千葉高等学校の改革について・・・・・・・・・・	6
4	市立稲毛高等学校・附属中学校の改革について・・・・・・・・	7
	資料編・・・・・・・・・・	11
	審議経過・・・・・・・・・・	18

1 これまでの市立高等学校改革の取組み

⇒ P 1 1 【資料 1】 参照

千葉市における高等学校は、昭和 3 4 年 4 月に千葉市立高等学校（当時の名称。市立稲毛高等学校が開校した時に現在の千葉市立千葉高等学校へ校名を変更した。）が開校し、昭和 4 5 年 4 月には理数科が設置された。

また、昭和 5 4 年 4 月に市立稲毛高等学校が開校し、平成 2 年 4 月には国際教養科が設置された。

両校が開校した当時は、人口の増加及び高等学校進学率の上昇により、高等学校進学ニーズに 대응するという量的な変化への対応が求められていた。その後、平成に入り、少子化の進展等の社会情勢の変化により、高等学校では特色ある学校づくりが求められ、両校とも質的な変化への対応が喫緊の課題となった。

平成 3 年 4 月に中央教育審議会答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」が示され、情報化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応するため、全国的に高等学校改革が行われるようになった。

こうした背景のもと、まず、平成 1 2 年度から 1 4 年度において、文部科学省の中高一貫教育実践研究の委嘱を受け、千葉市中高一貫教育研究会を設置し、千葉市における中高一貫教育の可能性について研究を進めた。

また、開校から 4 0 年が経過する市立千葉高等学校では千葉市立千葉高等学校改築事業により、平成 1 4 年度に千葉市立千葉高等学校改築構想専門検討委員会を設置した。改築の在り方について答申を受け、「千葉市立千葉高等学校改築基本構想」をまとめ、平成 1 5 年度に「千葉市立千葉高等学校改築基本計画」を策定した。

これらの中高一貫教育校に関する研究や改築に係る基本構想等においては、高等学校が直面する様々な課題について、教育制度や施設設備の面から解決を図るための基本的な方向を示した。

さらに、平成15年度に教育委員会内に千葉市立高等学校在り方研究会を設置し、今後の市立高等学校の在り方について、各方面からの意見を聴取する機会を設けて検討したことを受け、平成17年6月に千葉市立高等学校改革基本方針を策定し、国の答申を踏まえながら、両校が、生徒の才能を十分に伸長させる魅力ある学校づくりのための改革の方針を定めた。

その中で、市立千葉高等学校は、平成19年度入学生より、これまでの理数教育の実績を生かしつつ、多様な進路ニーズに対応する単位制を導入し、進学重視型単位制高等学校として再スタートした。

また、千葉市では、平成22年度より「科学都市戦略構想」を掲げており、市・産業界・大学等研究機関・市民団体等が連携し、市民が科学技術に触れる機会を創出するとともに、科学技術の分野で活躍する人材を千葉市から輩出することで、産業基盤の強化を図る取組みを推進している。

このような状況の中で、市立千葉高等学校は平成24年度から5年間、文部科学省から2回目の「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」（以下、SSHという。）の指定を受けるなど、特色ある理数教育を展開しており、科学都市戦略推進の中核を担う役割が期待されている。

市立稲毛高等学校は、これまでの英語教育の先進的な取組みを発展させるとともに、併設型中高一貫教育校とする方針を決定し、平成19年4月に併設型の市立稲毛高等学校附属中学校（以下、附属中学校という。）を開校した。

平成21年3月には「千葉市学校教育推進計画」が策定され、その具体施策の中に「市立高等学校教育の充実」、アクションプランとして「市立高等学校改革の評価・検証」が位置付けられた。

これに基づき、改革の成果と課題を洗い出し、平成23年2月に「千葉市立高等学校改革の評価・検証（中間まとめ）」（以下、「中間まとめ」という。）として整理し、さらに平成25年3月には、附属中学校1期生が市立稲毛高等学校を卒業したことを受け、「中間まとめ」の課題への対応とこれまでの成果を改めて評価及び検証を行い、平成26年3月に「千

葉市立高等学校改革の評価・検証（最終まとめ）」（以下、「最終まとめ」という。）として取りまとめを行った。

そこでは、市立高等学校改革の成果として、両校ともに進路ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者・卒業生から高い満足度が得られているなど、非常に高い評価を受けている。一方で、市立高等学校改革の成果や効果をより地域全体に波及させるための更なるアピールや、大学入試改革等に対応した教育課程の編成、附属中学校から入学した生徒（内進生）と高等学校から入学した（外進生）との学習進度の違いを考慮した中高の教育内容全体の検討等の課題が示されており、両校がより特色ある学校としてさらに発展することが期待されている。

また、市立高等学校の改革を強力に推進するため、平成28年3月に策定された「第2次千葉市学校教育推進計画」のうち、市立高等学校の改革に関する事項について、平成27年4月に設置された千葉市立高等学校改革推進会議において、市立高等学校改革の具体的な取組み内容や時期について議論し、平成28年3月に、「第2次千葉市学校教育推進計画に基づく市立高等学校改革を推進するための行動計画」（以下、「行動計画」という。）を取りまとめた。その中で、両校における市立ならではの特色と魅力を高め、市民のニーズや今後の少子化の進展等の社会情勢に対応できるように、千葉市として戦略的に改革を進めていくことが求められている。

2 市立高等学校改革の成果と課題（さらなる改革の必要性）

（1）市立千葉高等学校の成果と課題

①成果

- 平成19年度から進学重視型単位制を導入し、多様な進学ニーズに対応するため、教育課程に多彩な選択科目や学校設定科目を設置するとともに、授業時数を確保するため、50分7限授業を展開している。その結果、国公立大学や私立大学の合格

者数が顕著に増加した。 ⇒ P 1 4 【資料 4】 参照

- 平成 2 4 年度から 5 年間、文部科学省より S S H（スーパーサイエンスハイスクール）第 2 期の指定を受け、全国に先駆けて先進的な理数教育の研究開発（質の高い課題研究指導、教科を横断したクロスカリキュラム授業、専門性の高いフィールドワーク等）を行い、文部科学省の中間評価において全国で最も高い評価を受けた。その結果、平成 2 9 年度から 5 年間、第 3 期の指定も受けることができ、継続して先進的な理数教育に取り組んでいる。

- 入学者選抜における志願倍率は、前期選抜、後期選抜ともに市内公立高等学校の平均を大きく上回っており、学校に対する期待の高さがうかがえる。

⇒ P 1 2 ・ 1 3 【資料 2 ・ 3】 参照

② 課題

- 国の高大接続改革に伴う大学入試改革や高校教育改革の動向に対応するため、進学重視型単位制のメリットを生かした教育課程のさらなる進化（課題解決型学習の導入や英語教育の充実等）が求められている。 ⇒ P 1 5 【資料 5】 参照

- 千葉市では平成 2 2 年度から「科学都市戦略構想」を掲げ、「科学都市ちば」を目指して取り組んでいるが、市立千葉高等学校には、千葉市の理数教育の拠点としての役割が求められており、S S H で培った理数教育の成果を小・中学校にも波及させていくことが必要である。

（2）市立稲毛高等学校・附属中学校の成果と課題

① 成果

○ 中高一貫教育校で認められている教育課程の特例を生かし、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成、特色ある学校設定科目の設置、総合的な学習の時間における発達段階に応じた課題解決型学習等に取り組んでいる。その結果、知識だけではなく思考力・判断力・表現力を必要とする難関大学の入試にも対応できる力を身に付けさせることができ、それが合格実績の向上にも表れている。 ⇒ P 1 4 【資料 4】 参照

○ 文部科学省より S E L H i (スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール) の指定を受けた際に開発した先進的な英語教育を行っており、4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランス良く身に付けさせている。その結果、英語の民間試験(G T E C)におけるスコアは毎年全国平均を大きく上回っている。この高い英語力を基礎に、国際教育(国際交流事業、海外研修等)を充実させており、スーパーグローバル大学(文部科学省指定)へ進学する生徒も多い。

○ 市立千葉高等学校同様、入学者選抜における志願倍率は前期選抜、後期選抜ともに市内公立高等学校の平均を大きく上回っている。 ⇒ P 1 2 ・ 1 3 【資料 2 ・ 3】 参照

②課題

○ 内進生については、中高一貫教育の教育課程の特例による柔軟な教育課程の編成を行っているが、外進生との学習進度に違いが生じるため、特例による教育課程の編成は限られたものとなっている。中高一貫教育への高いニーズも踏まえ、学校の教育体制全体にわたる見直しを検討する必要がある。

⇒ P 1 6 【資料 6】 参照

○ グローバル化や多文化共生社会の進展に対応するため、これ

までの英語教育、国際教育をさらに充実させることが求められている。外国人教員の配置や留学生の受入れを拡充するなど、常に多様性のある環境で学ぶことができるよう検討する必要がある。

3 市立千葉高等学校の改革について

(1) 改革の方向性

進学型単位制や先進的な理数教育を軸として、学校教育活動全体のさらなる充実を図り、これからの社会を力強く生き抜き、グローバルに活躍できる人材の育成を目指す。

そのため、高大接続改革など国の教育改革に対応する教育活動や、SSHの継続指定に向けた取組みを推進する必要がある。

また、理数科設置校として、引き続き、千葉市の「科学都市戦略構想」と綿密に連携し、特色ある理数教育を展開することで、科学教育推進の一翼を担うことを目指していく。

(2) 具体的な取組み

① SSHで研究開発した取組みの成果をもとに、これからの社会で必要とされる能力（課題発見能力・課題解決能力・自己表現力等）を効果的に育成する教育課程を構築することが求められる。そのためには、次のような取組みを行うことが考えられる。

- ・クロスカリキュラム（教科横断型授業）の更なる展開
 - ・「社会とつながる探究」テーマにした総合的な探究活動の時間の導入
- など

② グローバル人材の育成に必要とされるコミュニケーションツールとしての英語力の習得を目指した教育環境づくりを推進するこ

とが求められる。そのためには、次のような取組みを行うことが考えられる。

- ・外国人留学生や地域在住の外国人の活用などによるT A（ティーチング・アシスタント）の導入
 - ・外国人講師の増員
 - ・4技能（聞く・話す・読む・書く）の習得状況を把握するための外部試験等の導入
- など

③ 小中学校との連携を推進し、理数教育の拠点校としての役割を強化することが求められる。そのためには、次のような取組みを行うことが考えられる。

- ・連携組織の設置
 - ・フィールドワークなどのSSH事業への小中学校教員の参加促進
 - ・小中学生を対象とする理科自由研究相談会の実施
- など

4 市立稲毛高等学校・附属中学校の改革について

（1）改革の方向性

中高一貫教育への市民ニーズに対応するとともに、中高一貫教育の特性がさらに生かせるよう、現在の併設型中高一貫教育校から中等教育学校へ移行する。

また、グローバル化や多文化共生社会の進展等、社会情勢の変化を踏まえ、これまでの英語教育、国際教育をさらに充実させる教育環境づくりを推進し、グローバル・リーダーの育成を目指す。

(2) 具体的な取組み

① 中高一貫教育校の教育課程上の特例を十分に活用した教育課程を編成することにより、学習内容を深め、幅広い教養を身に付けた人材を育成する必要がある。そのためには、次のような取組みを行うことが考えられる。

- ・各教科で前期課程と後期課程間の指導内容の移行を柔軟に行い、両課程における学習内容の重複を解消
- ・教科内容の組み換えによる系統的な学習指導
など

② 6年間の学びの連続性を生かし、将来を見据えた探究活動を生徒の発達段階に応じて計画的に実施することにより、グローバル・リーダーとして必要な資質能力を育成する必要がある。そのためには、次のような取組みを行うことが考えられる。

- ・大学や企業等と連携し、身近な地域課題からグローバルな社会課題をテーマに、国内及び海外でのフィールドワークや調査研究を実施
- ・関係機関への提言や実現に向けて行動を起こすことができる力の育成
- ・探究力や発信力だけでなく、発表後の質疑応答やディスカッションができる能力の育成
など

③ グローバル社会や多文化共生社会の一員としての視野を広げることのできる教育環境を整え、英語でディスカッションができる人材を育成する必要がある。そのためには、次のような取組みを行うことが考えられる。

- ・留学生の受入れや外部人材の積極的な活用
- ・各学年1名程度の外国人講師配置
- ・中国語等の言語科目の設定や当該言語の外国人講師の配置

- ・海外の大学進学へも対応できるカリキュラムの検討
など

(3) 市立稲毛高等学校・附属中学校における中等教育学校の基本的な
枠組みについて

① 開校時期 ⇒ P 1 7 【資料 7】 参照

- 平成 3 4 年 4 月の開校を目指す。
- 開校初年度の前期課程では 2 学級増の 4 学級とするが、同年度高等学校入学者選抜においては、2 学級減の 6 学級とし、段階的に高等学校の定員を削減するものとする。
- 中等教育学校の完成(1 期生から 6 期生までそろふ時期)は、平成 3 9 年度となる。

② 学校規模

- 1 学年の定員は 1 6 0 名とし、1 学級が 4 0 名の 4 学級規模とする。
- 学校規模は、6 学年 2 4 学級の 9 6 0 名となる。

③ 設置課程・学科

- 後期課程については、全日制の課程・普通科とし、単位制を導入する。
- 後期課程に設置するのは普通科とするが、これまで国際教養科で培ってきた成果を生かした教育課程を検討する必要がある。

④ 通学区域

- 通学区域は、千葉市内とする。

⑤ 施設改修

- 平成31年度に実施する劣化度調査の結果を踏まえ、実施計画を策定し実施する。

- 主体的・対話的で深い学びを実施するにあたり、活用しやすい少人数授業対応の教室等の設備が必要である。

⑥ 入学者選抜について

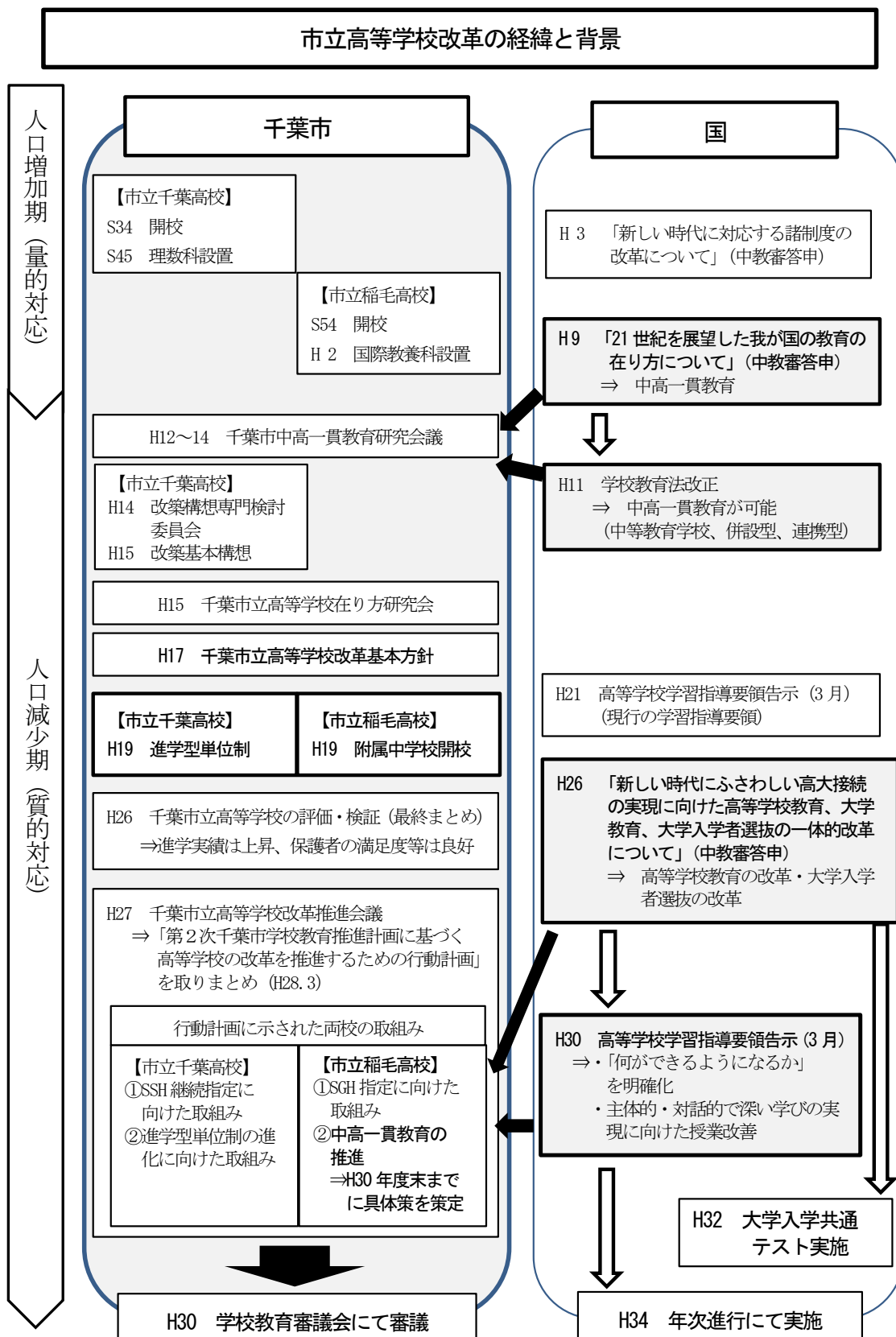
- 前期課程から後期課程への入学者選抜は行わないため、前期課程入学時のみの実施とする。

- 実施時期、現在と同じ時期が考えられる。

- 検査内容については、実施時期と併せて、慎重に検討を行い決定することが望まれる。

資料編

【資料1】市立高等学校改革の経緯と背景のイメージ図



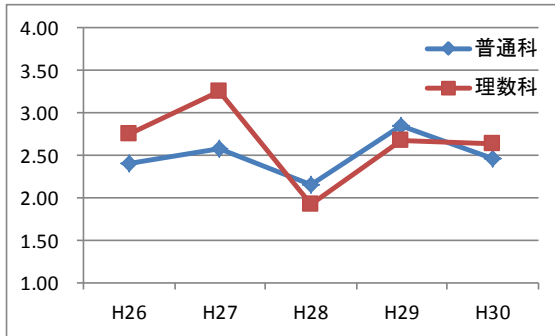
【資料 2】両校の入学者選抜における志願倍率推移

両校の入学者選抜における志願倍率推移

(1) 市立千葉高等学校

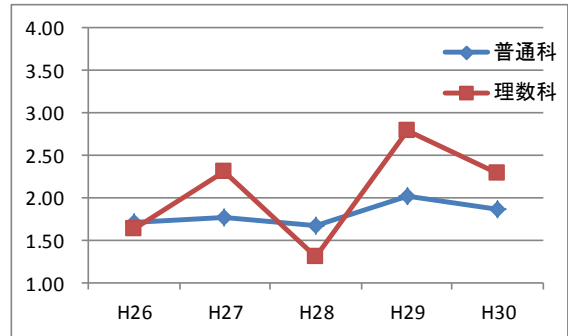
【前期】志願倍率

学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	2.40	2.58	2.15	2.85	2.46
理数科	2.75	3.25	1.92	2.67	2.63



【後期】志願倍率

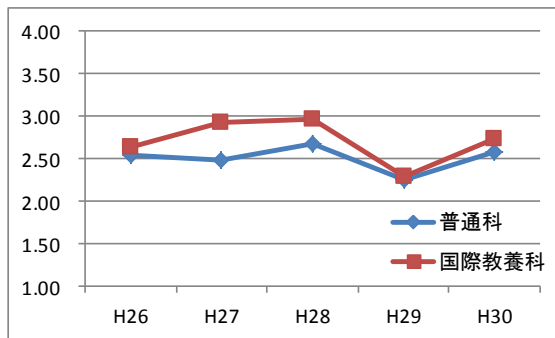
学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	1.72	1.77	1.67	2.03	1.86
理数科	1.63	2.31	1.31	2.80	2.30



(2) 市立稲毛高等学校

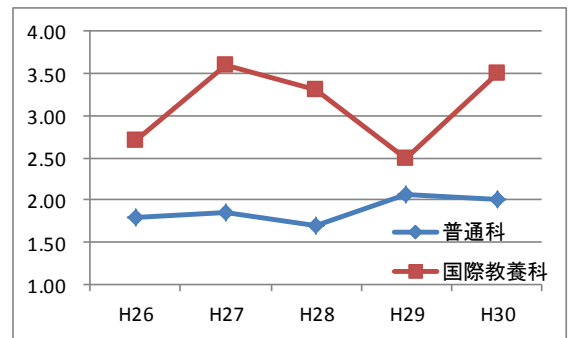
【前期】志願倍率

学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	2.54	2.48	2.67	2.26	2.58
国際教養科	2.63	2.93	2.97	2.30	2.73



【後期】志願倍率

学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	1.79	1.86	1.69	2.06	2.00
国際教養科	2.70	3.60	3.30	2.50	3.50



【資料3】千葉市内（第1学区）全日制公立高等学校志願倍率推移

千葉市内(第1学区)全日制公立高等学校志願倍率推移
(H26～30年度入学者選抜)

(1)前期選抜

学校名	H26	H27	H28	H29	H30
県千葉	3.58	2.82	3.27	3.29	3.00
千葉女子	1.71	1.77	1.56	1.51	2.12
千葉女子(家政)	1.66	1.44	1.23	1.38	1.73
千葉東	2.79	2.89	2.94	2.86	3.25
千葉商(商業・情報システム)	1.48	1.69	1.33	1.47	1.37
京葉工業(機械)	1.41	1.38	1.10	1.15	1.00
京葉工業(電子工業)	1.30	1.02	1.26	0.91	1.10
京葉工業(設備システム)	1.16	1.19	1.05	1.18	1.03
京葉工業(建設)	1.72	1.44	1.30	1.45	1.08
千葉工業(電子機械)	1.27	1.55	1.11	0.95	1.21
千葉工業(電気)	1.08	1.44	1.09	1.46	1.19
千葉工業(情報技術)	1.22	1.75	1.03	1.18	1.25
千葉工業(工業化学)	1.72	1.91	1.28	1.18	1.08
千葉工業(理数工学)			1.35	0.65	0.80
千葉南	1.95	1.94	1.97	1.80	1.95
検見川	2.60	2.54	2.28	2.32	2.51
千葉北	2.05	2.09	1.98	1.85	1.76
若松	1.63	1.93	2.03	1.93	1.79
千城台	1.55	1.47	1.61	1.61	1.70
生浜	2.02	2.19	1.75	2.35	2.23
磯辺	2.53	2.08	2.20	2.84	1.74
泉	1.86	1.37	1.15	1.40	1.07
幕張総合	2.61	2.52	2.47	2.59	2.29
幕張総合(看護)	2.41	1.66	1.88	2.15	2.48
柏井	1.63	1.56	1.36	1.38	1.26
土気	1.59	1.77	1.63	1.53	1.65
千葉西	2.22	2.19	2.51	2.05	2.28
犢橋	1.79	1.67	1.52	1.67	1.77
市千葉	2.40	2.58	2.15	2.85	2.46
市千葉(理数)	2.75	3.25	1.92	2.67	2.63
稲毛	2.54	2.48	2.67	2.26	2.58
稲毛(国際)	2.63	2.93	2.97	2.30	2.73
第1学区倍率	1.94	1.93	1.78	1.82	1.82
県平均倍率	1.83	1.82	1.73	1.75	1.74

※()は、学科名。()なしは普通科。後期選抜も同様。

※千葉工業(理数工学)は、H28年度に開設。

(2)後期選抜

学校名	H26	H27	H28	H29	H30
県千葉	2.81	1.98	2.03	2.38	1.95
千葉女子	1.47	1.49	1.13	1.40	1.89
千葉女子(家政)	1.75	1.25	-	-	-
千葉東	1.91	2.01	1.98	1.89	2.10
千葉商(商業・情報システム)	1.67	1.66	-	-	-
京葉工業(機械)	1.44	1.31	-	-	1.50
京葉工業(電子工業)	1.25	1.19	-	1.71	-
京葉工業(設備システム)	1.25	1.13	-	-	-
京葉工業(建設)	1.63	1.25	-	-	1.50
千葉工業(電子機械)	1.19	1.44	-	-	2.00
千葉工業(電気)	1.00	1.38	-	-	2.50
千葉工業(情報技術)	1.00	1.63	-	2.00	-
千葉工業(工業化学)	1.25	2.00	-	-	-
千葉工業(理数工学)			-	0.46	0.67
千葉南	1.34	1.58	1.38	1.29	1.53
検見川	1.85	1.78	1.94	1.71	1.79
千葉北	1.74	1.49	1.44	1.44	1.32
若松	1.07	1.34	1.22	1.52	1.36
千城台	1.27	1.11	1.63	1.28	1.45
生浜	0.94	1.63	1.06	1.53	1.63
磯辺	2.05	1.72	1.84	1.91	1.55
泉	1.94	1.25	1.29	1.62	1.13
幕張総合	1.78	1.78	1.71	1.91	1.63
幕張総合(看護)	2.75	2.00	-	-	-
柏井	1.18	1.08	0.88	1.18	0.77
土気	1.12	1.27	1.51	1.21	1.20
千葉西	1.68	1.60	1.82	1.42	1.63
犢橋	1.44	1.36	1.22	1.37	1.33
市千葉	1.72	1.77	1.67	2.03	1.86
市千葉(理数)	1.63	2.31	1.31	2.80	2.30
稲毛	1.79	1.86	1.69	2.06	2.00
稲毛(国際)	2.70	3.60	3.30	2.50	3.50
第1学区倍率	1.59	1.62	1.54	1.72	1.69
県平均倍率	1.40	1.39	1.43	1.44	1.40

※千葉工業(理数工学)は、H28年度に開設。

※専門学科については、H28年度入学者選抜から前期選抜において募集定員の枠を100%までとすることができる。

前期選抜枠を100%と定めた学科において、入学許可候補者に内定した者のうち入学確約書を提出した者の数が募集定員を満たす場合には、後期選抜を実施しない。

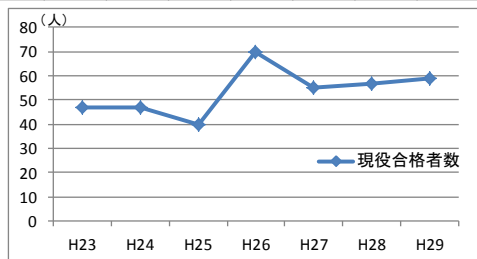
【資料 4】 両校における 4 年制大学現役合格者数

両校における4年制大学現役合格者数

(1) 市立千葉高等学校

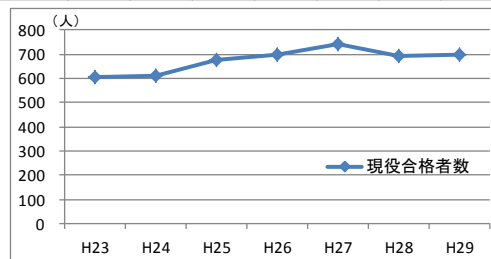
【国立大学】(延べ数(人))

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	47	47	40	70	55	57	59



【私立大学】(延べ数(人))

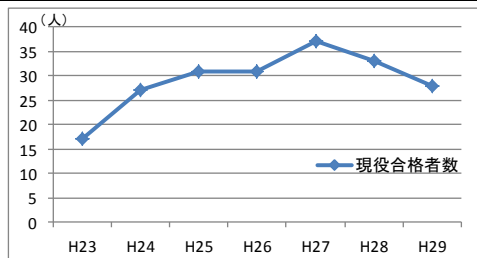
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	606	612	676	696	741	690	698



(2) 市立稲毛高等学校

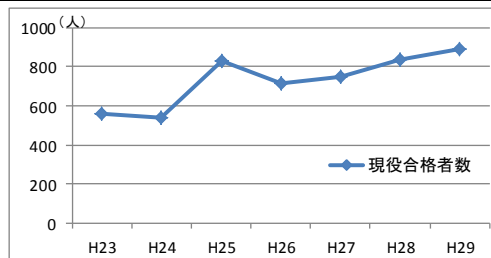
【国立大学】(延べ数(人))

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	17	27	31	31	37	33	28

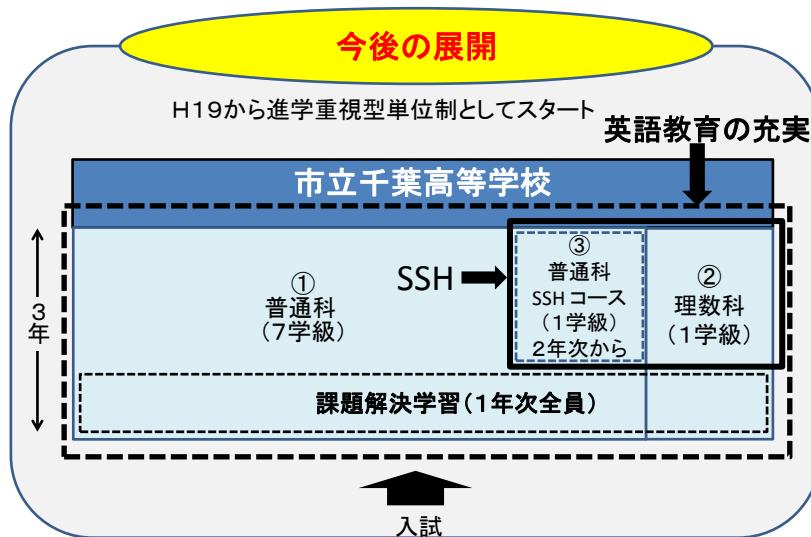
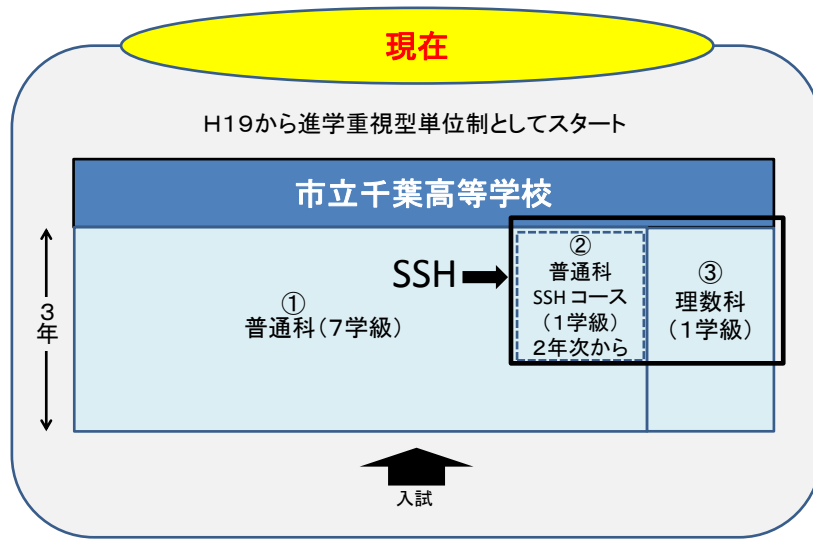


【私立大学】(延べ数(人))

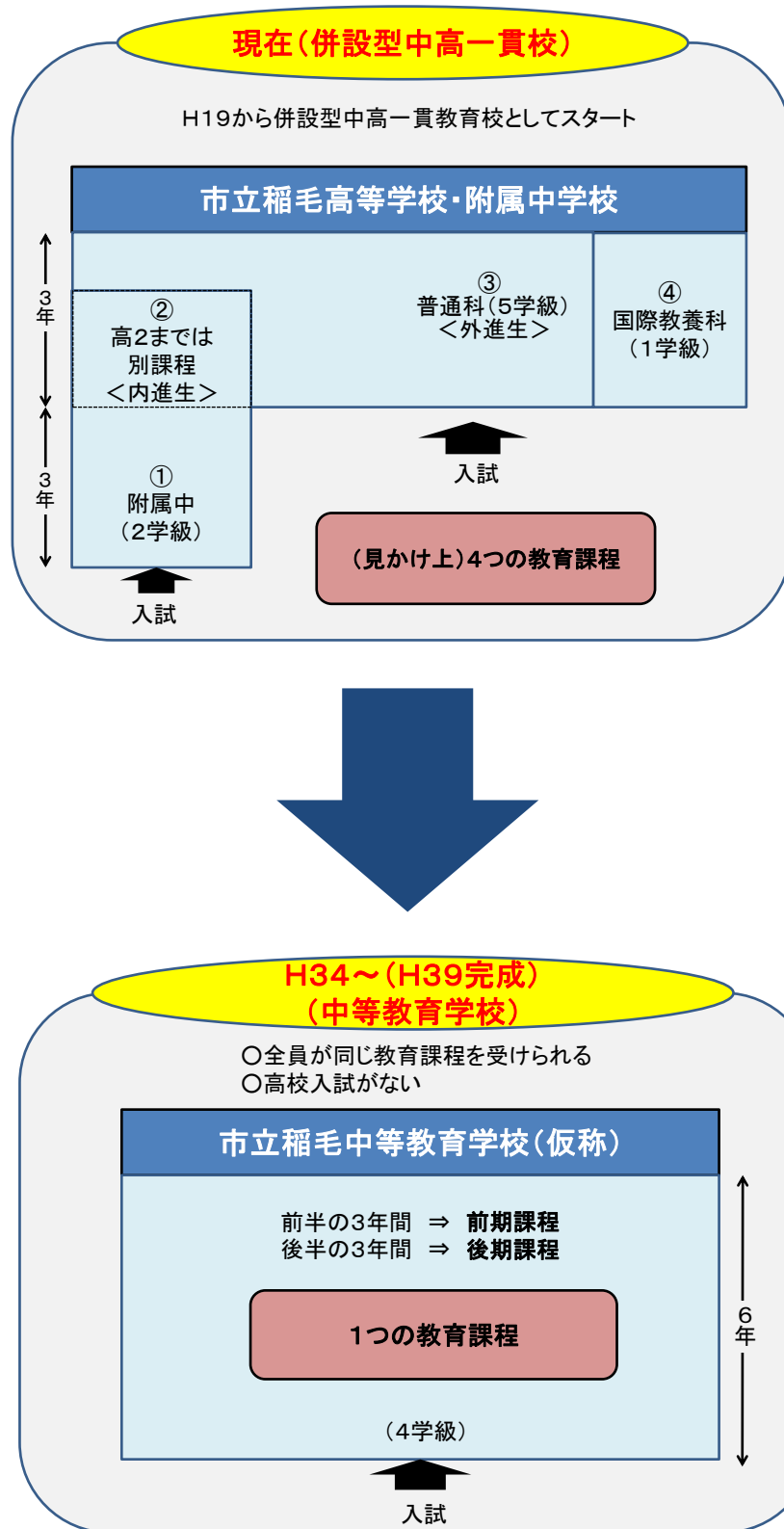
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	558	543	832	713	748	835	889



【資料5】市立千葉高等学校の改革のイメージ図



【資料6】市立稲毛高等学校・附属中学校の改革のイメージ図



【資料 7】 学校規模でみる中等教育学校への移行スケジュール（例）

学校規模でみる中等教育学校への移行スケジュール(例)

※表中の数字は学級数。

年度		H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	中等教育 学校	
高等学校	3年	8	8	8	8	8	6	6	6	4	4	6年	後期課程
	2年	8	8	8	8	6	6	6	4	4	4	5年	
	1年	8	8	8	6	6	6	4	4	4	4	4年	
附属 中学校	3年	2	2	2	2	2	4	4	4	4	4	3年	前期課程
	2年	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	2年	
	1年	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	1年	
学校規模		30	30	30	30	30	30	28	26	24	24		

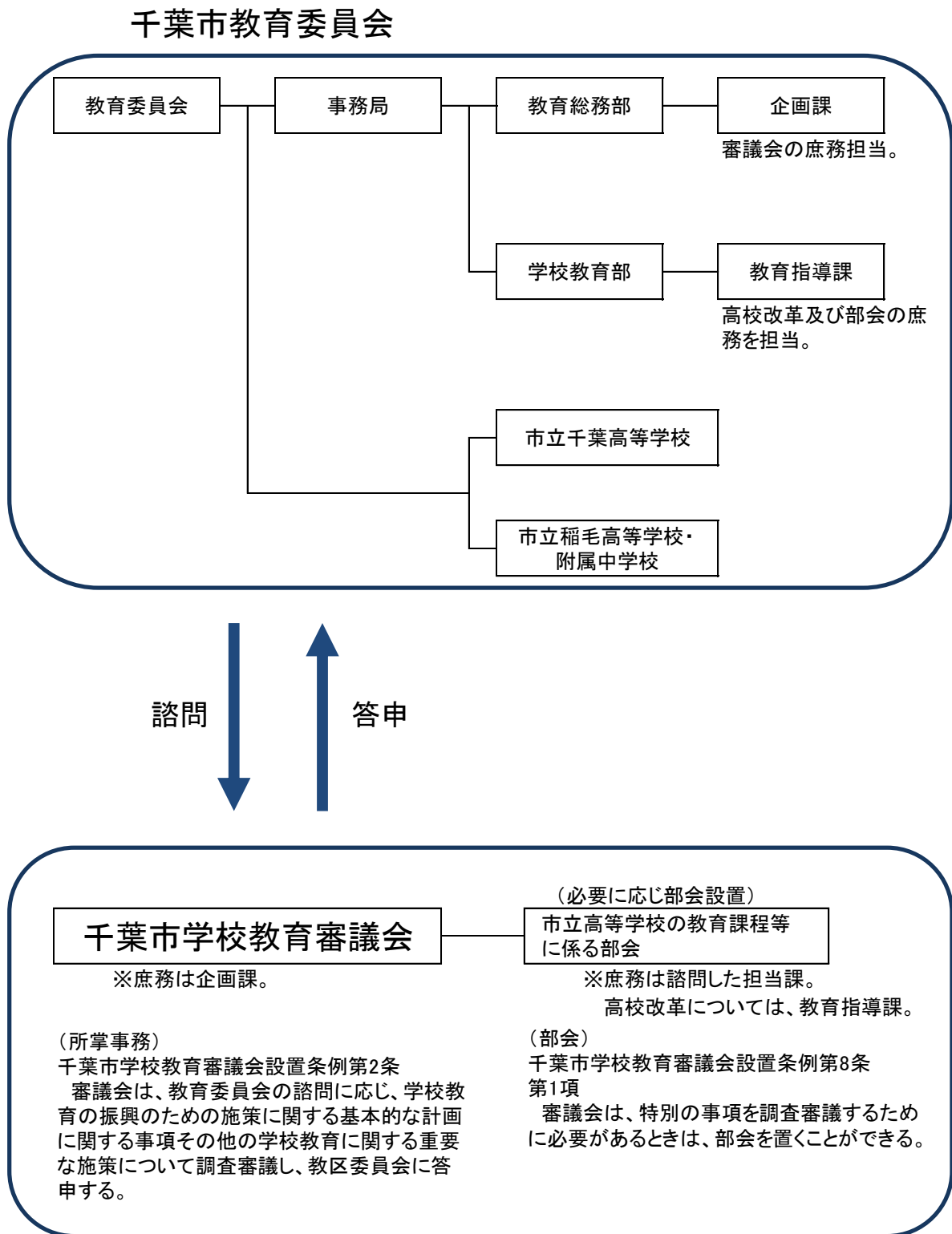
4月
開校

[移行期における学校の存立状況]

- 平成 33 年度まで 市立稲毛高等学校，附属中学校
- 平成 34・35 年度 中等教育学校，附属中学校，市立稲毛高等学校
- 平成 36～38 年度 中等教育学校，市立稲毛高等学校
- 平成 39 年度 中等教育学校（1 期生～6 期生までそろろう）

審議経過

(1) 千葉市学校教育審議会と千葉市教育委員会との関係組織図(略図)



(2) 平成30年度における審議経過

平成29年度

3月 ・ 政策会議

平成30年度に審議会にて審議することについて協議。

平成30年度

4月 ・ 千葉市立高等学校改革推進会議（第1回）（教育委員会事務局内の会議。以下、改革推進会議という。）

審議会への諮問について協議。

5月 ・ 第1回審議会

千葉市教育委員会教育長から諮問。部会設置を承認。

6月 ・ 部会

市立千葉高等学校の理数教育拡充の具体像について及び市立稲毛高等学校・附属中学校の中等教育学校への移行に伴う教育課程などについて審議。

7月 ・ 改革推進会議（第2回）

第1回審議会及び部会報告。市立高等学校改革の方向性について協議。

7月 ・ 第2回審議会開催

市立高等学校改革の方向性について審議。

10月 ・ 改革推進会議（第3回）

答申素案について協議。

11月 ・ 第3回審議会

答申素案としての「市立高等学校改革の方向性」（素案）について審議。

12月 ・ 改革推進会議（第4回）（予定）

答申案について協議。（予定）

第4回審議会の時には
「(予定)」は削除する。

1月 ・ 第4回審議会（予定）

市立高等学校改革の方向性について答申。（予定）